

学校番号 ( 1 )  
学校名 福岡市立 箱崎中学校  
校長名 今村 隆  
(生徒指導担当者 武石 英朗)

## 令和 5 年度 箱崎中学校いじめ防止基本方針

いじめの防止等のための取組に係る達成目標

定期的な校内研修として、5月に学校いじめ防止基本方針の共通理解、8月に学校いじめ防止対策委員会の取組内容改善、3月に次年度いじめ防止基本方針見直しを行う。

### 1 いじめ防止等に対する基本姿勢

「いじめは、どの学校でもどの学級でもどの子にも起こり得るものである。」という認識のもと、児童生徒が「いじめのない明るく楽しい学校生活」を送ることができるように、「いじめ防止基本方針」を策定した。いじめ防止のための基本姿勢として、以下の5つのポイントをあげる。

- (1) いじめは卑怯な行為であることを全校生徒で確認します。
- (2) いじめのない学校生活を送るために生徒はそれぞれの絆を深めます。
- (3) 生徒は互いの個性を認め合い、尊重します。
- (4) 生徒は自分の言動に責任をもち、将来の夢を豊かに語ります。
- (5) 生徒はいじめを許さない強い心を互いに育てあいます。

#### <箱崎中いじめゼロ宣言>

・箱中 Family 一丸となって、悩んでいる人に手を差しのべます。

### 2 いじめの未然防止（未然防止のための取組等）

#### (1) いじめを生まない教育活動の推進

- 学校におけるいじめを生まない独自の取組の実施を一層促進する。
- 共同的な活動を通して、生徒自らが「絆づくり」をするために、教職員が様々な教育活動の場面で「場づくり」を行う。
- 生徒が安心することができ、自己存在感や充実感を感じられる「居場所づくり」を行う。
- 「いじめに特化したアンケート」または「教育相談アンケート」等を月に1回以上実施し、学期に1回（年間3回程度）「いじめに特化した『無記名』アンケート」を実施する。
- Q-Uを1、2年生は年2回、3年生は年1回実施し、結果を分析した上で、実態に応じた支援を行う。特に、Q-Uにおける要支援群の生徒には、直ちに組織的かつ適切な支援を行う。
- 「学校いじめ防止対策委員会」を月1回開催する。いじめの問題への組織的指導体制の整備等の取組を推進する。
- 生徒が主体となって、いじめがおこらない学級や学校をつくるという発想に立ち、いじめの未然防止の取組を進めていく「いじめゼロプロジェクト」を実施する。

## (2) 地域・家庭、関係機関との積極的連携

○保護者、地域住民、児童相談所その他の関係者との連携を図るとともに、校区内の諸会議や学校サポーター会議、学校警察連絡協議会等を活用する。

## 3 いじめの早期発見・即対応（いじめの兆候を見逃さない取組等）

- (1) いじめに関する早期発見のための措置や相談体制の整備、被害生徒の権利等を擁護する。
- (2) いじめの問題に対する学校の取組の充実のため、「いじめ対応マニュアル」（市教委作成）及び「いじめの早期発見・早期対応の手引」（県教委作成）の活用の一層の徹底を図る。
- (3) いじめに関する早期発見のための措置や相談体制を整備する。

## 4 いじめに対する措置（ネット上のいじめ、加害児童生徒への対応も含む）

- (1) 直ちにいじめを受けた生徒やいじめを知らせてきた生徒の安全を確保し、組織的に対応する。
- (2) 状況や対応の経緯等について、客観的な事実確認を行い、その結果を速やかに教育委員会に報告する。
- (3) 教育相談課等と連携し、被害生徒をはじめ、被害生徒の保護者や加害生徒・保護者等へのカウンセリング等の心のケアを行う。
- (4) 中学校における出席停止制度等の適切な運用及び全ての学校における毅然とした組織的指導の徹底を図る。
- (5) 学校だけでは対応が困難な事案に対して、教育委員会の支援チームの活用を行い、いじめの問題の早期解決に努める。
- (6) 被害生徒の権利・利益を擁護するための配慮として、区域外通学や別室指導等柔軟な対応に努める。
- (7) インターネット上のいじめが重大な人権侵害に当たることを理解させる取組を行い、児童生徒に情報モラルを身に付けさせる指導の充実を図る。
- (8) 加害児童生徒に対しては、人格の成長を旨として、教育的配慮の下、毅然とした態度で指導するとともに、加害児童生徒が抱える問題の解決を図る。

## 5 重大事態への対処（いじめ防止対策推進法 第28条関係）

生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるようなものについては、教育的な配慮や被害者の意向への配慮のうえ、早期に警察に相談・通報し、警察と連携した対応を取る。

## 6 いじめ防止のための職員研修

- (1) 教職員のいじめの問題に関する資質の向上を図るため、教育委員会と連携し、学校基本方針の共通理解、いじめの防止等のための対策に関する校内研修を実施する。
- (2) 「いじめ対応マニュアル」、教職員向けリーフレット「いじめゼロに向けて」や「いじめの早期発見・早期対応の手引き」を活用し、自らの対応を振り返るよう教職員の研修の徹底を図る。
- (3) いじめを未然に防止するために、Q-Uアンケートの分析・活用のための校内研修を実施する。
- (4) Q-Uアンケート実施後、事例検討会において、情報を組織的に共有し、支援方針を明確にする。
- (5) ネット上のいじめに関する校内研修を実施する。

## 7 その他（各取組のPDCAサイクル等について）

- (1) 学校いじめ防止基本方針を策定するに当たっては、方針を検討する段階から保護者、地域住民、関係機関等の参画を得た学校いじめ防止基本方針になるようにし、また、生徒の意見を取り入れるなど、いじめの防止等について生徒の主体的かつ積極的な参加が確保できるようにする。
- (2) 策定した学校いじめ防止基本方針については、学校のホームページや通信等で広く周知を図るとともに、その内容を、必ず入学時・各年度の開始時に生徒、保護者、関係機関等に説明する。
- (3) 学校基本方針に基づき、取組が適切に機能しているかを学校いじめ防止対策委員会を中心に点検し、必要に応じて見直しを行う。

## 8 いじめ防止等の対策のための組織（いじめ防止対策推進法 第22条関係）

### (1) 組織の名称・役割

○名称 箱崎中学校いじめ防止対策委員会

○役割

- ・学校が組織的かつ実効的にいじめの問題に取り組むにあたって中核となる役割。
- ・基本方針に基づく取組の推進や年間計画の作成・実行・検証・修正
- ・いじめの相談・通報の窓口
- ・いじめの疑いに関する情報や生徒の問題行動などに係る情報の収集と共有
- ・学校における、いじめであるかどうかの判断
- ・関係のある生徒への事実関係の聴取、組織的な指導や支援体制・対応方針の決定と保護者との連携等

### (2) 組織の構成（別添資料1参照）

## 9 重大事態発生時の調査機関（いじめ防止対策推進法 第28条関係）

### (1) 組織の名称と役割

○名称 箱崎中学校いじめ緊急対策委員会

○役割

- ・重大事態の発生について教育委員会への報告
- ・重大事態に係る事実関係の調査
- ・関係のある生徒への事実関係の聴取、組織的な指導や支援体制・対応方針の決定と保護者との連携等
- ・調査結果を教育委員会に報告
- ・調査結果について関係生徒及び保護者への情報提供

### (2) 組織の構成員

校長、教頭、主幹教諭、生徒指導担当、養護教諭、SC、SSW、学年主任、PTA会長および副会長

10 いじめ防止等の各取組の年間計画（P・D・C・Aを記入）

月	生徒等への取組 及び生徒の活動		職員研修等		チェック
4	学校いじめ防止基本方針作成 学校生活アンケート	P D	校内いじめ防止対策委員会 学校いじめ防止基本方針作成 家庭訪問	D P D	
5	いじめアンケート（無記名）	D	箱崎中いじめ防止対策委員会 学校警察連絡協議会	D D	
6	いじめゼロ取組月間 生徒会による取組の宣言 Q-Uアンケート いじめアンケート	D PD D D	校内いじめ防止対策委員会	D	
7	生活習慣定着度調査 教育相談アンケート 学校生活アンケート	D D D	校内いじめ防止対策委員会 教育相談 学校サポーター会議 地域懇談会	CA D DC DC	
8	いじめアンケート	D	校内いじめ防止対策委員会 夏季研修（Q-U事例検討会） 夏季研修（いじめの早期発見） ・1学期の取組の反省 ・2学期の取組の確認	CA CA D C AP	
9	教育相談アンケート 生徒会による取組	D D	箱崎中いじめ防止対策委員会 教育相談	D D	
10	いじめゼロサミット参加 いじめアンケート（無記名）	D D	校内いじめ防止対策委員会	D	
11	いじめアンケート 生徒会役員研修 いじめゼロ実現プロジェクト	D CA D	校内いじめ防止対策委員会	D	
12	学校生活アンケート	D	校内いじめ防止対策委員会 ・2学期の取組の反省 ・3学期の取組の確認 学校警察連絡協議会	C AP D	
1	いじめアンケート（無記名） 生徒会による取組	D CA	校内いじめ防止対策委員会	D	
2	教育相談アンケート	D	箱崎中いじめ防止対策委員会 教育相談 学校警察連絡協議会	D D D	
3	学校生活アンケート	D	校内いじめ防止対策委員会 ・1年間の取組の反省 ・年度の取組の確認 学校サポーター会議	C AP C	